

藤井 智史 先生



電波で海を測る!?

日時：令和5年3月10日[金]

16:00 – 17:00

会場：琉球大学工学部1号館322教室

Zoom ID 878 9202 7203

passcode 357642



お問い合わせ：m-saito@tec.u-ryukyu.ac.jp (齋藤)

津軽海峡進むレーダー観測

函館に局設置 下北含め4カ所目

海洋機構など

海洋研究開発機構（JAMSTEC、神奈川県横須賀市）と琉球大は、短波レーダーを用いた津軽海峡の海洋状況の観測態勢を強化している。22～26日には、函館市内と下北半島北東部を含め計4カ所目となるレーダー局を市内釜谷町の旧汐首小跡地に設置。潮の流れや波の速さなどの観測データを常時把握し、公開することで、漁業や洋上風力など海面利用に役立てたい考えだ。

（芝垣なの香）

漁業・洋上風力に活用

短波レーダーは、アンテナ送り、海面の流れにぶつかって返ってくる電波の変化

を受信する。変化を解析することで流れの向きや波の速さ、高さなどがわかる。JAMSTECは2014年から、函館市恵山地区の1カ所と青森県内2カ所に送受信アンテナを備えたレーダー局を設置し、津軽海峡東部の観測データをホー

ムベージで公開している。4カ所目となるレーダー局の設置は、さらに西側の海域まで観測対象を広げ、津軽暖流が太平洋に与える影響を探ることが目的。JAMSTECは26日までに、海を見渡せる旧汐首小跡地の約2150平方メートルを函館市から無償で借り、レーダー開発を委託した琉球大の研究者らと約10人でアンテナを設置した。観測データを送る通信環境が整い次第、年内の稼働を目指す。アンテナは琉球大が製作し、これまでの米国製アンテナよりコストを抑えた。同大の藤井智史教授は「レーダーなら陸上から『面』で常時観測できるようになる」と優位性を説明する。現状、戸井漁協の漁業者は、自身のスマートフォンアプリなどで気象状況を確認している。越田司洋専務



旧汐首小跡地に設置したレーダー局。琉球大の藤井智史教授（手前左）とむつ研究所の佐々木建一所長（手前右）＝藤井泰生撮影

新たに設置されたレーダー局の観測範囲

